~情報サービス産業動向調査~ 会員アンケート調査票

2023年11月

一般社団法人 情報サービス産業協会

ご記入にあたってのお願い

- 1. 本調査は、情報サービス産業の実態を把握し、情報サービス企業各社における今後の経営戦略の立案などに資する情報提供を行うために実施するものです。
- 2. 当協会が毎年刊行しております「情報サービス産業白書」では、昨年はユーザ企業と情報サービス企業の関係性に着目し、その関係性を進化させるために必要な取組について明らかにしてきました。また、昨今ではサイバーとフィジカルの融合が進み、デジタル化が前提となり、市場構造や事業環境が変化し全ての企業に対して大きな影響が生じているため、ユーザ企業も情報サービス企業も環境変化への対応が求められます。これらを踏まえ、2024年夏刊行予定の「情報サービス産業白書 2024年版」では、「デジタル化による社会変化と情報サービス産業における新しいテクノロジーの活用」とのテーマを設定し、デジタル化が社会に与える影響やその捉え方、これらの環境変化に適応するための新しいテクノロジーの活用の在り方に着目し、ユーザ企業の期待に応え情報サービス産業を活性化させるために必要な役割、価値提供を明らかにすることを目的としています。
- 3. この調査票では、以下の内容についてお尋ねします。
 - (ア) 貴社の事業概要
 - (イ) 貴社における経営の現状・今後の見通し
 - (ウ) デジタル化による社会変化
 - (エ)新しいテクノロジーの社会実装の姿
- 4. ご回答の方法は各質問文に示されておりますが、特に断りがない場合は該当する番号にチェックをつけてください。また、空欄が設けられている場合には該当する番号、仮名、数値を空欄内にご記入ください。なお、「その他」を選択された場合は、() 内にその内容を具体的にご記入ください。
- 5. ご回答いただいた内容は、すべて統計的に分析・処理されます。本調査へのご回答により、貴社になんらかの 影響が発生することは一切ありません。
- 6. ご回答者の個人情報は、当協会事務局において厳重に管理いたします。原則として、ご回答いただいた内容の 照会や集計結果の送付以外の目的に使用することはありません。
- 7. ご記入いただいた調査票は、<u>2023 年 12 月 11 日(月)</u>までに、メール、ファックス、郵送等にてご返送ください。 本調査は WEB フォームからもご回答可能です。
 - ■回答送付先/お問い合わせ先:一般社団法人 情報サービス産業協会 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-3-4 S-GATE 大手町北 6F

電話 : 03-5289-7651 FAX : 03-5289-7653 E-mail : wpq@jisa.or.jp (担当:田畑・澤井)



ご回答者 (ご回答内容についての照会先/集計結果送付先)

所在地	₸	
貴社名		
ご担当者	お名前	TEL:
	部署・役職名	
E-mail		

貴社の事業概要についてお伺いします

QI. Ţ	責任の但近年度の 「a. 元上尚」「b. 栓吊利益」「c.	. 止規促業員剱」をこ凹各ください。
	※連結ではなく、貴社単体としてご回答くださ	۲۷ _° ،
a.	売上高 (1 つだけ)	
	□ 1.5億円未満	□ 5. 50 億~100 億円未満
	□ 2.5 億~10 億円未満	□ 6. 100 億~200 億円未満
	□ 3. 10 億~20 億円未満	□ 7. 200 億~500 億円未満
	□ 4. 20 億~50 億円未満	□ 8. 500 億円以上
b.	経常利益 (1 つだけ)	
	□ 1. 赤字	□ 6. 5 億~10 億円未満
	□ 2. 0~1,000 万円未満	□ 7. 10 億~50 億円未満
	□ 3. 1,000 万~5,000 万円未満	□ 8. 50 億~100 億円未満
	□ 4. 5,000 万~1 億円未満	□ 9. 100 億円以上
	□ 5. 1 億~5 億円未満	
с.	正規従業員数(1 つだけ)	
	□ 1. 50 人未満	□ 5. 500~1,000 人未満
	□ 2. 50~100 人未満	□ 6. 1,000~2,000 人未満
	□ 3. 100~200 人未満	□ 7. 2,000~5,000 人未満
	□ 4. 200~500 人未満	□ 8. 5,000 人以上
Q2. 貴	貴社の主要顧客の業種として当てはまるものを全	全て選び、該当する番号にチェックをつけてください。
	(いくつでも)	
	□ 1. 農林漁業	□ 8. 通信業
	□ 2. 鉱業	□ 9. 卸売・小売・飲食店
	□ 3. 建設業	□ 10. 金融・保険業
	□ 4. 製造業 (コンピュータメーカ関係)	□ 11. 不動産業
	□ 5. 製造業 (コンピュータメーカ以外)	□ 12. 情報サービス業
	□ 6. 電気・ガス・熱供給・水道業	□ 13. その他サービス業
	□ 7. 運輸業	□ 14. 公務その他

Q3. 貴社の事業のうち、最も割合の高い開発形態は何ですか。最も近いものを1つ選び、該当する番号にチェッをつけてください。(1つだけ)	<i>ı</i> ク
□ 1. 自社サービス開発 □ 2. 情報子会社・・・親会社などグループ企業向けのシステム企画/開発/運用業務が最も多い □ 3. 受託開発(元請け)・・・親会社などグループ企業以外からの委託業務(元請け)が最も多い □ 4. 受託開発(中間下請け)・・・元請けではなく、再委託(外注)している □ 5. 受託開発(最終下請け)・・・元請けではなく、再委託(外注)は(ほとんど)していない □ 6. その他()	
Q4. 貴社の主要顧客(売上ベース)の規模として最もよく当てはまるものを選び、該当する番号にチェックをつてください。(1つだけ)	っけ
□ 1. 大企業(従業員数 1,000 人以上)が多い□ 2. 中堅企業(従業員数 300 人以上~1,000 人未満)が多い□ 3. 中小企業(従業員数 300 人未満)が多い	
貴社における経営の現状や今後の見通しについてお伺いします	
Q5. 貴社では、昨年度(2022年度)と比べた今年度(2023年度)の業況をどのように見通していますか。以下 それぞれの項目について、貴社の見解として該当する番号にチェックをつけてください。	の

選択肢	大きく増加 (+10%超)	やや増加 (+5~+10%)	ほぼ横ばい (±5%以内)	やや減少 (-5~-10%)	大きく減少 (-10%超)				
A. 全体									
① 売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
② 経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
B. 全体のうち「特定顧客からの受託(B. 全体のうち「特定顧客からの受託 (開発・運用等)」								
① 売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
② 経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
C. 全体のうち「自社パッケージ・IT t	ナービス」								
① 売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
② 経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
D. 全体のうち「顧客との共同事業」									
① 売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				
② 経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5				

		大きく増加	やや増加	ほぼ横ばい	やや減少	大きく洞
	選択肢	(+10%超)	(+5~+10%)	(±5%以内)	(-5~-10%)	10%超
A. 全	全体					
1	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
2	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
B. 全	全体のうち「特定顧客からの受託	(開発・運用等	[(幸			
1	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
2	経常利益	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
C. 全	全体のうち「自社パッケージ・IT	サービス」				
	売上高	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
1		□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	
① ②	経常利益					
2	経常利益 全体のうち「顧客との共同事業」		<u> </u>			
2			□ 2	□ 3	□ 4	

Q7. 貴社では、昨年度(2022年度)と比べた今年度(2023年度)の自社への投資をどのように計画しています か。以下のそれぞれの項目について、該当する番号にチェックをつけてください。

	選択肢	大きく増加 (+10%超)	やや増加 (+5~+10%)	ほぼ横ばい (±5%以内)	やや減少 (-5~-10%)	大きく減少 (-10%超)
1	全体	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
2	人材関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
3	設備関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
4	IT 関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
5	研究開発関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
6	マーケティング関連投資	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
7	M&A	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

Q8.	直近	3 年	F程度によ	ける貴	社の課題	認識と	してあっ	てはまる	ものを、	該当す	「る番号に	こチェッ	クをつり	ナてく	、ださ
	٧١ ₀ ((V)<	(つでも)												

1.	継続的に発生していた案件が中止・延期・縮小されつつある
2.	新規案件が減少している
3.	自社のケイパビリティでは対応できない要望が増えている
4.	顧客ニーズの把握が薄れている
5.	営業機会が減少している
6.	自社サービスや、営業力、技術力の競争優位性が低下している
7.	人材が不足している
8.	その他 ()

Q9.	以下の領域について、	今後の見通しをど	のようにお考えですか。	以下のそれぞれの項目	について、	該当する番
	号にチェックを付けて	こください。(1つす	" つ)			

	選択肢	現状売上があ り、10 年程度ま たはそれ以上安 定した売上を保 てると思う	現状売上があ り、5 年程度売 上を保てると 思うが、以降 は減少するリ スクを感じる	現状売上があり、直近数年 以内で減少す るリスクを感 じる	現状売上がない	わからない
1	新規システムの受託開発	□ 1	\square 2	□ 3	\Box 4	□ 5
2	既存システムの保守・運用	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
3	パッケージ/SaaS の販売	□ 1	\square 2	□ 3	□ 4	□ 5
4	システムコンサルティング	□ 1	\square 2	□ 3	\Box 4	□ 5
5	DX 推進のコンサルティング	□ 1	\square 2	□ 3	\Box 4	□ 5
6	顧客との事業共創(JV、レベニューシェアなど)	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5
7	その他 ()	□ 1	□ 2	□ 3	□ 4	□ 5

Q10. Q9の現状売上がある領域について、(A) 現在の売上で最も割合の大きい領域と、(B) 今後事業を拡大しようと計画している領域について、それぞれ該当する番号にチェックを付けてください。(A, B で 1 つずつ)

	選択肢	A. 現在の売上で最も割合の 大きい領域	B. 今後事業を拡大しよう と計画している領域
1	新規システムの受託開発	□ 1	□ 1
2	既存システムの保守・運用	□ 2	□ 2
3	パッケージ/SaaS の販売	□ 3	□ 3
4	システムコンサルティング	□ 4	□ 4
5	DX 推進のコンサルティング	□ 5	□ 5
6	顧客との事業共創(JV、レベニューシェアなど)	□ 6	□ 6
7	その他 ()	□ 7	□ 7

デジタル化による社会変化と貴社の対応状況についてお伺いします。

Q11. 以下に挙げる項目のうち、<u>デジタル化の進展が</u>強い影響を与えたと思われる対象について、該当する番号 すべてにチェックをつけてください。また、選択したもののうち、最も強い影響を与えると思われるものにつ いて、1~30の選択肢から一つ、該当する番号にチェックをつけてください。

該当するもの

すべて

最も強い影響

を与えるもの

デジタル化の進展が影響を与える項目

[7	5場・顧客の状況】	
1.	新規市場の創出	
2.	市場全体・顧客の労働力不足への対応強化	
3.	サプライチェーンの変化	
4.	既存市場の拡大	
5.	新たなテクノロジーの台頭	
6.	市場および競合環境のグローバル化	
7.	顧客の ICT・デジタル分野への投資規模の変化	
8.	他社との競争の高まり	
9.	企業間の合併・提携・連携の活発化	
10.	サービスに必要な IT の変化	
7	社会的・国際的状況】	
11.	人材に求められるスキルセットの変化	
12.	政府・行政との連携強化	
13.	SDGs/ESG 等サステナビリティの推進	
14.	国際的な規制、コンプライアンス対応	
15.	社会的な労働環境の変化(リモートワークの一般化など)	
16.	労働者の価値観の変化	
17.	海外市場規模の変動	
18.	採用市場における競争の高まり、IT 人材の需給	
19.	国際的な安全保障政策の必要性、リスクの高まり	
20.	テクノロジーの国際的規範整備や標準化の進行	
	自社の状況】	
21.	自社が提供する商品、サービス価格水準の変動	
22.	自社が提供する商品、サービスの種類や範囲の変更	
23.	自社の業務遂行方法の変革	
24.	自社が購入する商品、サービス価格水準の変動	
25.	自社の営業方針の変更	
26.	自社の組織改革	
27.	コンプライアンス(法令遵守)強化	
28.	リスク管理の強化	
29.	働き方改革の進展	
30.	人材のダイバーシティの強化	

Q12. 貴社では、Q11で選択した状況の変化を受けて、今後どのような経営の方向性を目指す必要があるとお考えですか。次の項目の中から、当てはまるものを全て選び、該当する番号にチェックをつけてください。また、選択したもののうち特に重視する項目について、1~17の選択肢から一つ、該当する番号にチェックをつけてください。

経営の方向性	該当するものすべて	特に重視する項目一つ
【市場・顧客の状況への対応】		
1. 既存事業分野におけるシェア拡大(高付加価値サービスへのシフト等を含む)		
2. 新規事業分野、業界への進出		
3. 既存事業分野からの撤退、対象業界の絞り込み		
4. ユーザ企業のデジタル化の支援強化		
5. 事業の国際展開、海外売上比率の拡大		
【社会的・国際的状況への対応】		
6. 人材確保・育成、リスキリングの強化		
7. サービスに関わるグローバルスタンダードの重視		
8. サステナブル経営への転換		
9. 環境保護 (GX、カーボンニュートラル等) への対応強化		
10. CSR 活動など社会貢献の重視		
11. 経済安全保障への対応強化		
【自社の状況への対応】		
12. 企業規模の拡大(合併等を含む)		
13. 企業規模のスリム化		
14. 企業間提携や水平連携の促進		
15. 開発、生産の効率化 (コストダウン)		
16. リスクマネジメント、コンプライアンスの強化		
17 労働環境の改革	П	

情報サービス事業者とユーザ企業とのあるべき関係性についてお伺いします。

Q13. 貴社では、貴社の主要な顧客はどの領域においてデジタル化のニーズがあると考えていますか。特に当てはまるものを3つまで選び、該当する番号にチェックをつけてください。 また、そのニーズに対して貴社はどの程度対応できていると考えますか。該当する番号にチェックをつけてください。

a.	デジタル化の対象となる領域(最大3つまで)	
	□ 1. 新製品・サービス、新規ビジネスの創出	
	□ 2. 既存製品・サービスの高付加価値化	
	□ 3. 既存製品・サービスの販路拡大、マーケティング強化	
	□ 4. 製品の安定供給、サービスの稼働継続	
	□ 5. 製品・サービスのセキュリティ対策、情報保護	
	□ 6. ビジネスモデル改革	
	□ 7. 顧客満足度、カスタマーエクスペリエンス向上	
	□ 8. 業務効率化、コスト削減	
	□ 9. 企業文化や働き方改革	
	□ 10. その他(具体的に:)
b.	顧客ニーズへの対応状況(1 つだけ)	
	□ 1. 十分対応できていると考える	
	□ 2. 一部対応できていると考える	
	□ 3. 現時点では対応できていないが、対応に向け準備を進めている	
	□ 4. 全く対応できていない	

新しいテクノロジーの貴社での活用状況をお伺いします。

Q14. 新しいテクノロジー X (表中①~⑬) について、回答者自身の認知度、関心の度合いとしてそれぞれ当てはまるものを選び、該当する番号にチェックをつけてください。(各行につき 1 つだけ)

【新しいテクノロジー X の認知度(個人)】	1. 全く知らな い	2. 言葉だけ聞 いたことがあ る	3. どういった ものか知って いる (が利用 したことはな い)	4. 利用したことがある
① 生成 AI				
② 機械学習(生成 AI を除く)				
③ メタバース				
④ VR/MR/AR				
⑤ コンテナ技術				
⑥ ブロックチェーン				
⑦ Web3.0				
⑧ クラウドネイティブ型アーキテクチャ				
⑨ ゼロトラストセキュリティ				
⑩ 量子コンピュータ				
⑪ アジャイル開発/反復型開発				
② DevOps/DevSecOps				
⑬ ノーコード・ローコード開発				

Q15. 新しいテクノロジー X (表中①~⑬) について、【社内業務への適用】における貴社の全社的な活用意向の度合いとして当てはまるものを選び、該当する番号にチェックをつけてください。(各行につき 1 つだけ)

【新しいテクノロジー X の活用意向 (企業・社内業務への適用)】	1. 全社的 に活用し ている	2. 部署に よっては 活用して いる	3. 全社で 今後の活 用を検討 している	4. 部署に よっては 今後の活 用を検討 している	検討した ことはな	6. 活用状 況を認知 していな い
① 生成 AI						
② 機械学習(生成 AI を除く)						
③ メタバース						
④ VR/MR/AR						
⑤ コンテナ技術						
⑥ ブロックチェーン						
⑦ Web3.0						
⑧ クラウドネイティブ型アーキテクチャ						
⑨ ゼロトラストセキュリティ						
⑩ 量子コンピュータ						
⑪ アジャイル開発/反復型開発						
12 Dev0ps/DevSec0ps						
🔞 ノーコード・ローコード開発						

【新しいテクノロジー X の活用意向 (企業・自社サービス(顧客向けサー ビス)への適用)】	1. 全社的 に活用し ている	2. 部署に よっては 活用して いる	今後の活 用を検討	4. 部署に よっての活 用を検討 している	検討した	6. 活用状 況を認知 していな い
① 生成 AI						
② 機械学習(生成 AI を除く)						
③ メタバース						
④ VR/MR/AR						
⑤ コンテナ技術						
⑥ ブロックチェーン						
⑦ Web3.0						
⑧ クラウドネイティブ型アーキテクチャ						
⑨ ゼロトラストセキュリティ						
⑩ 量子コンピュータ						
⑪ アジャイル開発/反復型開発						
<pre> ② DevOps/DevSecOps </pre>						
⑬ ノーコード・ローコード開発						

Q17. 新しいテクノロジー X (表中①~⑬) の登場が貴社に与える影響力について、どのように認識していますか。(各行につき 1 つだけ)

【新しいテクノロジー X が自社に与える 影響(企業)】	1. 自社の事業にと ってチャンスとな る	2. 自社の事業にとって脅威となる	3. 自社の事業に影 響はない
①生成 AI			
②機械学習(生成 AI を除く)			
③ メタバース			
④ VR/MR/AR			
⑤コンテナ技術			
⑥ ブロックチェーン			
⑦ Web3. 0			
⑧ クラウドネイティブ型アーキテクチャ			
⑨ゼロトラストセキュリティ			
⑩ 量子コンピュータ			
⑪アジャイル開発/反復型開発			
② DevOps/DevSecOps			
③ ノーコード・ローコード開発			

【新しいテクノロジー $X(Q14 \, o \, \mathbb{D} \sim \mathbb{G})$ のうち、 \mathbb{O} 生成 AI について活用状況をお尋ねします。】 <Q15またはQ16で(①生成 AI を 1. 全社的に活用している、2. 部署によっては活用している)を選択した方に お尋ねします。> Q18. 生成 AI の活用方法について、以下にそれぞれ記入してください。 a. 活用し始めた時期 (年 月から) b. 活用の目的(いくつでも) □ 1. 新製品・サービス、新規ビジネスの創出のため □ 2. 既存製品・サービスの高付加価値化のため □ 3. 既存製品・サービスの販路拡大、マーケティング強化のため □ 4. 製品の安定供給、サービスの稼働継続のため □ 5. 製品・サービスのセキュリティ対策、情報保護のため □ 6. ビジネスモデル改革のため □ 7. 顧客満足度、カスタマーエクスペリエンス向上のため □ 8. 業務効率化、コスト削減のため □ 9. 企業文化や働き方改革のため □ 10. その他(具体的に:) c. 具体的なユースケース(自由記述) d. 活用にあたっての社内推進体制(関与がある部門すべて) □ 1. 経営企画部門 □ 2. 情報システム部門・情報子会社 □ 3. 事業部門 (新事業担当) □ 4. 事業部門 (既存事業担当) □ 5. 研究所・研究機関 □ 6. 横断的組織 (新技術担当) □ 7. その他(具体的に:) □ 8. 明確になっていない e. 社外連携先の存在(関与がある連携先すべて) □ 1. 他業界(IT ベンダを除く)の企業 □ 2. 同業界の企業 □ 3. 情報子会社/関連会社 □ 4. IT ベンダ (SIer、IT 製品/ソリューション・サービスベンダ等) □ 5. デジタルプラットフォーマー (GAFAM 等) □ 6. コンサルファーム □ 7. 中小のソフトウェア開発企業 □ 8. Tech 企業 (ベンチャー含む) □ 9. 個人事業主 □ 10. 大学・研究機関

)

□ 11. その他(具体的に:

□ 12. 連携を取っている外部組織はない

f. 検討時点から見た、現在の活用状況に対する評価(1 つだけ) □ 1. 非常に活用できている	
□ 2. やや活用できている	
□ 3. あまり活用できていない	
g. その活用方法の今後の見通し(当てはまるものすべて)	
□ 1. 社内の他の部署へスキームを展開する	
□ 2. 新製品・サービスとして顧客への提供を始める	
□ 3. 生成 AI の利用を取りやめる	
< Q15 または Q16 で (①生成 AI を 3. 全社で今後の活用を検討している、4. 部署によっては今後の活用を	〉烩計〕
ている)を選択した方にお尋ねします。>	- 1天日) レ
Q19. 生成 AI の活用の検討状況について、以下にそれぞれ記入してください。	
a. 検討している活用の目的(いくつでも)	
□ 1. 新製品・サービス、新規ビジネスの創出のため	
□ 2. 既存製品・サービスの高付加価値化のため	
□ 3. 既存製品・サービスの販路拡大、マーケティング強化のため	
□ 4. 製品の安定供給、サービスの稼働継続のため □ 5. 制具、サービスのセキ・リティ対策、棒型促業のため	
□ 5. 製品・サービスのセキュリティ対策、情報保護のため□ 6. ビジネスモデル改革のため	
□ 7. 顧客満足度、カスタマーエクスペリエンス向上のため	
□ 8. 業務効率化、コスト削減のため	
□ 9. 企業文化や働き方改革のため	
□ 10. その他(具体的に:	
b. 検討している具体的なユースケース(自由記述)	
0. 候的している異体的なペースケース(自由記述)	
c. 今後活用する可能性、時期の見通し(1 つだけ)	
□ 1.他社に先駆けて出来るだけ早く導入したい	
□ 2. 先行ユーザの活用実績が出てきたら導入したい	
□ 3. 同業他社の導入が増えてきたら導入したい	
□ 4. 新規システムの導入時にあわせて導入したい (現時点で予定がある)	
□ 5. 新規システムの導入時にあわせて導入したい (現時点では予定していない)	
□ 6. 既存システムの更改時にあわせて導入したい (現時点で予定がある)	
□ 7. 既存システムの更改時にあわせて導入したい (現時点では予定していない)	
□ 8. 新規事業の立ち上げ時に導入したい (現時点で予定がある)	
□ 9. 新規事業の立ち上げ時に導入したい(現時点では予定していない)	
□ 10. 社会で一定程度普及し、生成 AI の市場や価格が成熟したタイミングで導入したい	

d. 導入・	利用にあたり課題となっている点(いくつでも)
□ 1.	導入・利用の判断に必要な情報の不足
\square 2.	導入・利用における相談相手がいない、限定的
□ 3.	著作権やプライバシー等の制度に関する知識の不足
□ 4.	導入効果を得るためのノウハウや知識の不足
□ 5.	要件定義
□ 6.	信頼性確保の不安
□ 7.	セキュリティ面の不安
□ 8.	導入費用が高額であること
□ 9.	運用・管理の費用が高額であること
□ 10). 導入、利用を担当する体制の構築や人材の不足
□ 11	. 運用・管理を担当する体制の構築や人材の不足
□ 12	2. 導入による新たな運用体制の構築や人材教育
□ 13	3. 導入効果を得ることや効果の定量的な把握が困難であること
□ 1 4	l.経営層の理解を得ることが困難であること
□ 15	5. 関連部門の理解が困難であること
□ 16	 組織の整備が困難であること
□ 17	7. 持続的なビジネスモデルの構築
□ 18	3. その他(具体的に:)
□ 19). 特に課題はない
【新しいテクノロ	ジー X のうち、貴社の事業にとって代表的又は最も重視する技術についてお尋ねします。】
Q20. 新しいラ	- - クノロジー X(Q14の①~⑬)のうち、 <u>①生成 AI 以外の技術で</u> 、貴社の事業にとって代表的又
は最も重要	とする技術として該当する番号にチェックをつけてください。(1 つだけ)
□ 1.	機械学習(生成 AI を除く)
\square 2.	メタバース
□ 3.	VR/MR/AR
\Box 4.	コンテナ技術
\Box 5.	ブロックチェーン
	Web3. 0
	クラウドネイティブ型アーキテクチャ
	ゼロトラストセキュリティ
	量子コンピュータ
). アジャイル開発/反復型開発 PayOng /PaySagOng
	. DevOps/DevSecOps 2. ノーコード・ローコード開発
/	

<Q20 で選択されたテクノロジー X について、Q15 またはQ16 で(1. 全社的に活用している、2. 部署によっては活用している)を選択した方にお尋ねします。>

Q21. 選択されたテクノロジー X の活用方法について、以下にそれぞれ記入してください。

a.	活用し始めた時期 (年月から)	
b.	活用の目的(いくつでも) □ 1. 新製品・サービス、新規ビジネスの創出のため □ 2. 既存製品・サービスの高付加価値化のため □ 3. 既存製品・サービスの販路拡大、マーケティング強化のため □ 4. 製品の安定供給、サービスの稼働継続のため □ 5. 製品・サービスのセキュリティ対策、情報保護のため □ 6. ビジネスモデル改革のため □ 7. 顧客満足度、カスタマーエクスペリエンス向上のため □ 8. 業務効率化、コスト削減のため □ 9. 企業文化や働き方改革のため □ 10. その他(具体的に:)
с.	具体的なユースケース(自由記述)	
d.	活用にあたっての社内推進体制(関与がある部門すべて) 1.経営企画部門 2.情報システム部門・情報子会社 3.事業部門(新事業担当) 4.事業部門(既存事業担当) 5.研究所・研究機関 6.横断的組織(新技術担当) 7.その他(具体的に: 8.明確になっていない)
e.	社外連携先の存在(関与がある連携先すべて) □ 1. 他業界(IT ベンダを除く)の企業 □ 2. 同業界の企業 □ 3. 情報子会社/関連会社 □ 4. IT ベンダ(SIer、IT 製品/ソリューション・サービスベンダ等) □ 5. デジタルプラットフォーマー(GAFAM 等) □ 6. コンサルファーム □ 7. 中小のソフトウェア開発企業 □ 8. Tech 企業(ベンチャー含む) □ 9. 個人事業主	
	□ 10. 大学・研究機関 □ 11. その他(具体的に: □ 12. 連携を取っている外部組織はない)

	f. 検討時点から見た、現在の活用状況に対する評価(1 つだけ) □ 1. 非常に活用できている	
	□ 2. やや活用できている	
	□ 3. あまり活用できていない	
	g. その活用方法の今後の見通し(当てはまるものすべて)	
	□ 1. 社内の他の部署へスキームを展開する	
	□ 2. 新製品・サービスとして顧客への提供を始める	
	□ 3. そのテクノロジー X の利用を取りやめる	
	0 で選択された新しいテクノロジー X について、Q15 またはQ16 で(3.全社で今後の活用を検討してい 署によっては今後の活用を検討している)を選択した方にお尋ねします。>	いる、
Q22.	選択されたテクノロジー X の活用の検討状況について、以下にそれぞれ記入してください。	
	a. 検討している活用の目的(いくつでも)	
	□ 1. 新製品・サービス、新規ビジネスの創出のため	
	□ 2. 既存製品・サービスの高付加価値化のため	
	□ 3. 既存製品・サービスの販路拡大、マーケティング強化のため	
	□ 4. 製品の安定供給、サービスの稼働継続のため	
	□ 5. 製品・サービスのセキュリティ対策、情報保護のため	
	□ 6. ビジネスモデル改革のため	
	□ 7. 顧客満足度、カスタマーエクスペリエンス向上のため	
	□ 8. 業務効率化、コスト削減のため	
	□ 9. 企業文化や働き方改革のため□ 10. Z 0/h (目 ##b);	
	□ 10. その他(具体的に:)	
	b. 検討している具体的なユースケース(自由記述)	
	c. 今後活用する可能性、時期の見通し(1 つだけ)	
	□ 1. 他社に先駆けて出来るだけ早く導入したい	
	□ 2. 先行ユーザの活用実績が出てきたら導入したい	
	□ 3. 同業他社の導入が増えてきたら導入したい	
	□ 4. 新規システムの導入時にあわせて導入したい(現時点で予定がある)	
	□ 5. 新規システムの導入時にあわせて導入したい (現時点では予定していない)	
	□ 6. 既存システムの更改時にあわせて導入したい(現時点で予定がある)	
	□ 7. 既存システムの更改時にあわせて導入したい(現時点では予定していない)	
	□ 8. 新規事業の立ち上げ時に導入したい(現時点で予定がある)	
	□ 9. 新規事業の立ち上げ時に導入したい (現時点では予定していない)	
	□ 10. 社会で一定程度普及し、そのテクノロジー X の市場や価格が成熟したタイミングで導入し	たい

□ 1. 導入・利用の	判断に必要な情報の不足		
□ 2. 導入・利用に	おける相談相手がいない、限定	的	
□ 3. 著作権やプラ	イバシー等の制度に関する知識	の不足	
□ 4. 導入効果を得	るためのノウハウや知識の不足	<u> </u>	
□ 5. 要件定義			
□ 6. 信頼性確保の	不安		
□ 7. セキュリティ	面の不安		
□ 8. 導入費用が高	額であること		
□ 9. 運用・管理の	費用が高額であること		
□ 10. 導入、利用を	と担当する体制の構築や人材のス	不足	
□ 11. 運用・管理を	と担当する体制の構築や人材のス	不足	
□ 12. 導入による新	ffたな運用体制の構築や人材教育	育	
□ 13. 導入効果を得	导ることや効果の定量的な把握 </th <th>が困難であること</th> <th></th>	が困難であること	
□ 14.経営層の理解	翼を得ることが困難であること		
□ 15. 関連部門の理	里解が困難であること		
□ 16. 組織の整備か	『困難であること		
□ 17. 持続的なビシ	ジネスモデルの構築		
□ 18. その他(具体	は的に:)	
□ 19. 特に課題はた	511		
Q23. 新しいテクノロジー X たことはありますか。(1~	X(生成 AI を含む、Q14 の①~ つだけ)	・③)について、2023 年に入り	、顧客から相談を受け
□ 1. 相談を受けた	こことがある		
□ 2. 相談を受けた	こことはない		

d. 導入・利用にあたり課題となっている点(いくつでも)

Q24.	貴社では、顧客の DX の取組状況についてどのように認識していますか。(1 つだけ)
	□ 1. 未着手 □ 2. 全社戦略になっておらず、活動も部署単位で散発的になっている □ 3. 全社戦略となっており、部署単位の活動として実施している □ 4. 全社戦略となっており、必要に応じて部署横断的な実施ができるようになっている □ 5. 全社戦略となっており、全社として進展が管理され、仕組みの改善も定期的に行われている □ 6. 上記のいずれかの特性を満たしたうえで、グローバル市場でも存在感を発揮し、競争上の優位性を確立している
Q25.	貴社の顧客売上(単体)の海外比率について当てはまる番号にチェックをつけてください。
	□ 1. 海外がほぼ 0%□ 2. 海外が数割程度 (40%未満)□ 3. 海外が半分程度□ 4. 海外が大半を占める (70%以上)

新しいテクノロジーの社会実装に関してお伺いします。

□ 5. 海外がほぼ 100%

質問は以上で終わりです。長時間ご協力ありがとうございました。